

palstep 2018年度レポート

SBプレイヤーズ株式会社では「情報革命で人々を幸せに～ITで地域社会に活力を～」との経営理念を掲げ、2018年11月よりCSR事業の一環として、不登校や教室での学びに課題のある児童生徒に対して、学習・校務支援サービス「palstep(パルステップ)」を提供しています。

本レポートでは2018年度の取り組み概要とその実績についてアンケート調査結果及び活用事例を通してご紹介いたします。

提供学習者数 : 405名
提供自治体 : 27自治体
学校等提供箇所 : 81か所

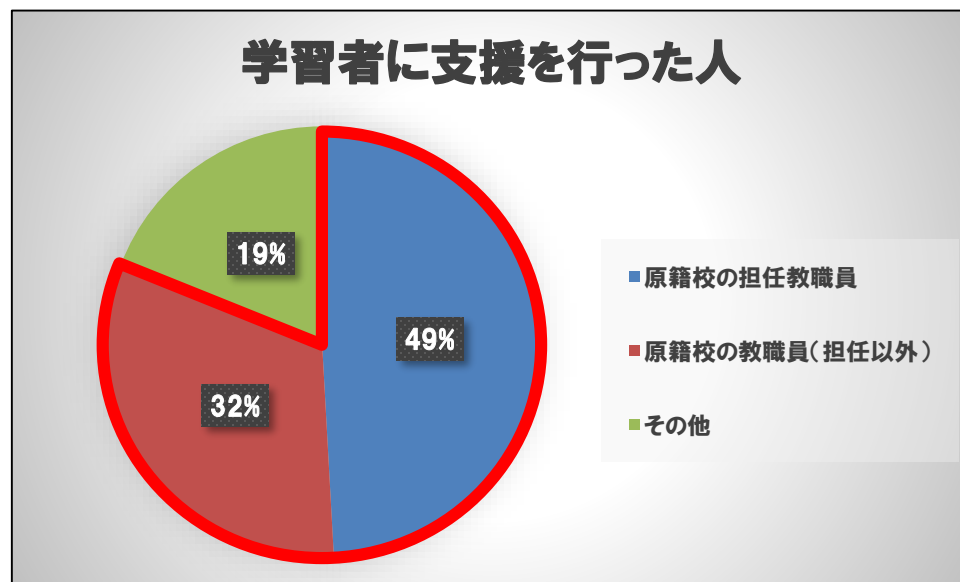
2018年11月より全国27の自治体様の学校等81か所に対して、palstepの学習者IDを405名分提供させていただきました。

アンケート調査結果

palstepのご利用先に対してアンケート調査を実施いたしました

アンケート対象者 : palstepを使用して支援を行った教職員等

palstep利用期間 : 2018年11月～2019年3月



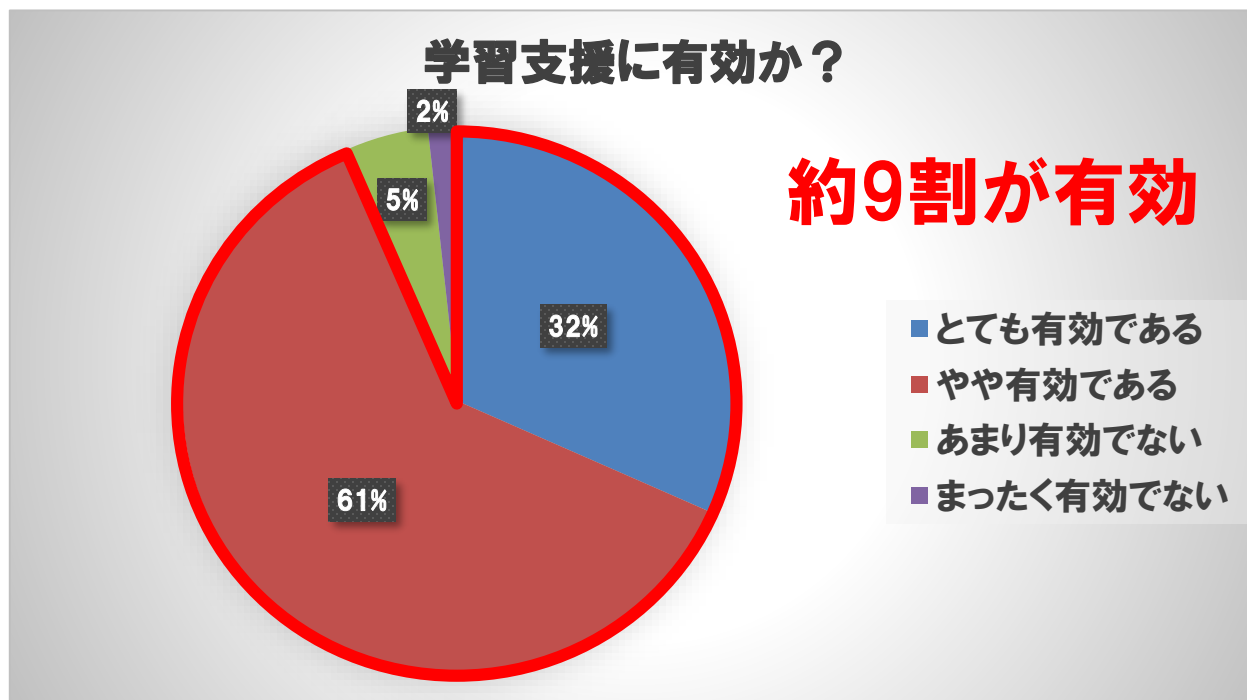
左のグラフは実際にpalstepを使って児童生徒(学習者)の支援を行った方の構成です。

約8割が原籍校の先生による支援、その他約2割は特別支援コーディネーターや適応指導教室の職員の方たちとなっています。



palstep利用前に教職員が期待したことは、学習についての項目が上位を占めました。

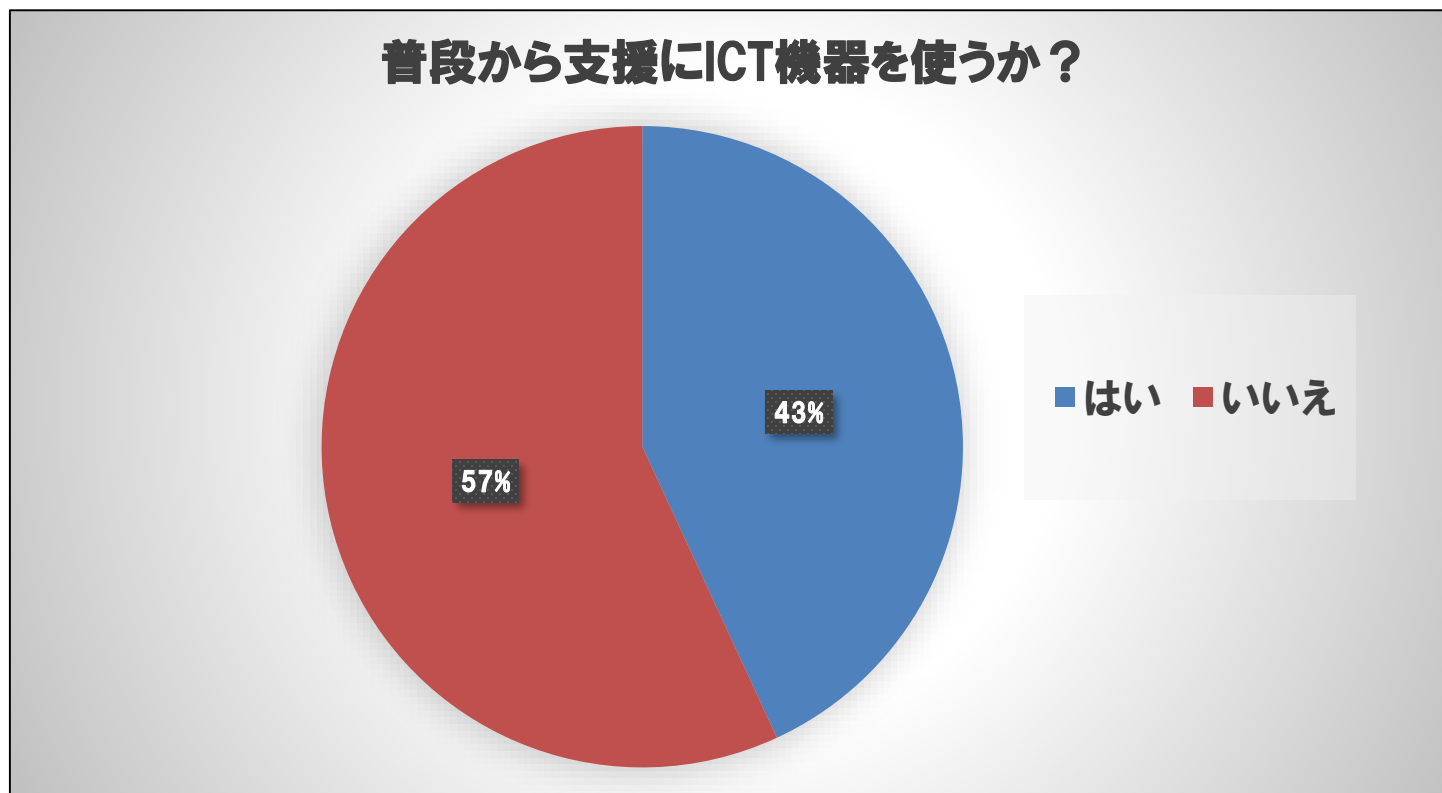
- 1位 児童生徒の学習機会の確保
- 2位 児童生徒の学習空白の補い
- 3位 児童生徒の学習習慣の定着
- 4位 児童生徒の学習時間の増加



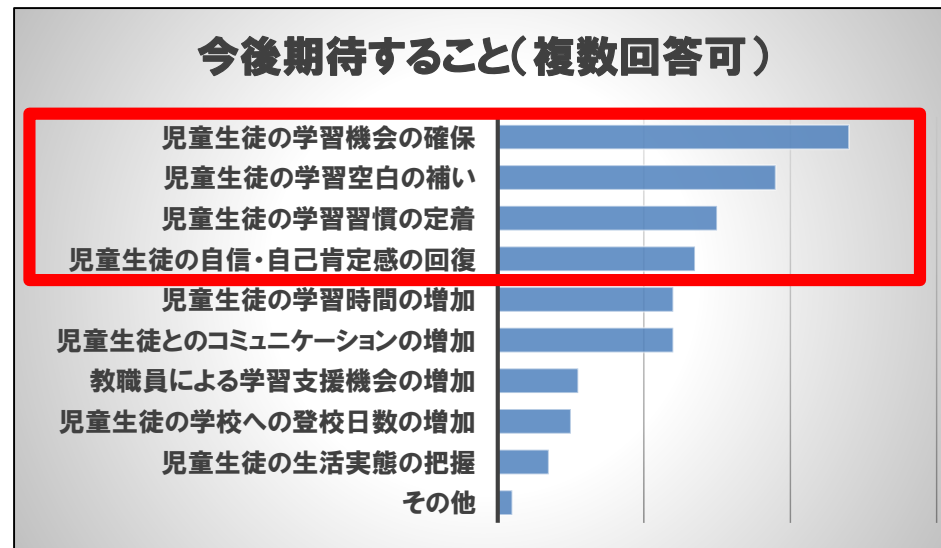
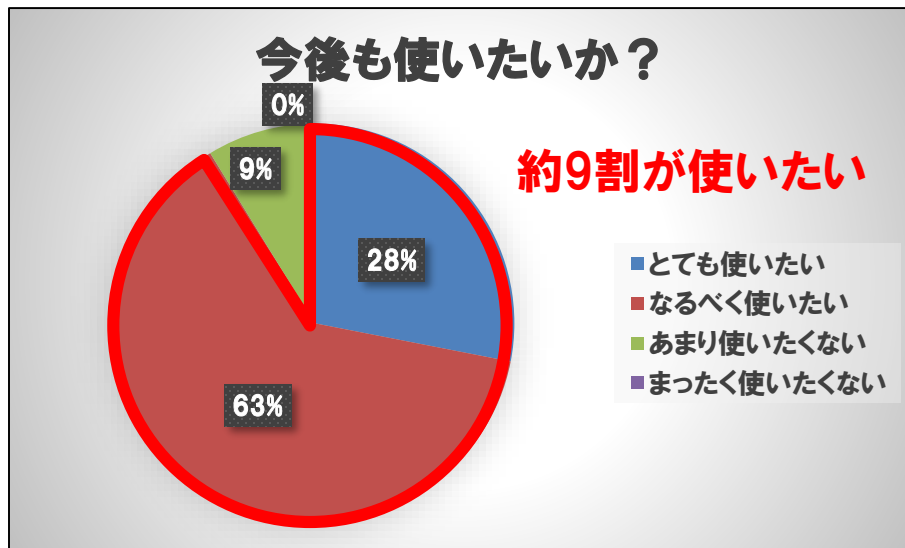
palstepを実際に利用して支援を行った教職員の約9割が「有効である」と回答し、事前に期待されていた学習支援について、有効性を感じていただけた結果となりました。

有効でないと感じた約1割のうち、主な理由は以下の通りです。

- ・利活用の環境が整っていなかったため
- ・操作が難しすぎた、学習コンテンツが難しすぎた
- ・対象児童生徒の学習意欲が低かった



約4割の教職員が普段からICTを活用されており、残りの6割の教職員は使用されていない状況です。また、前ページでも触れました「学習支援の有効性」については、普段からのICTの利活用をされていない教職員でも、約6割が学習支援に有効であると回答。palstepの効果を実感するために、ICTの習熟度はそれほど高くなくても実現できることが伺えます。

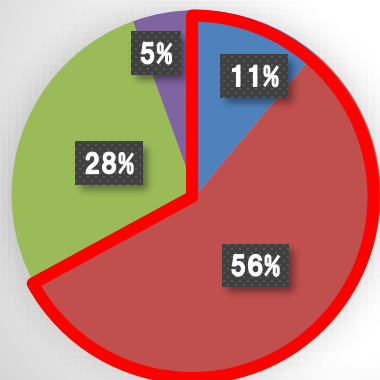


palstepを使ってみていただいたうえで、今後も使いたいかという質問に対しては、教職員の約9割の方が「使いたい」と回答されました。
また、使ってみただうえで今後期待することは、利用前と同様に学習関係が上位を占めつつ、「自信・自己肯定感の回復」についての期待が増加しています。

今後期待すること

- 1位 児童生徒の学習機会の確保
- 2位 児童生徒の学習空白の補い
- 3位 児童生徒の学習習慣の定着
- 4位 児童生徒の自信・自己肯定感の回復 ←事前の期待からアップ

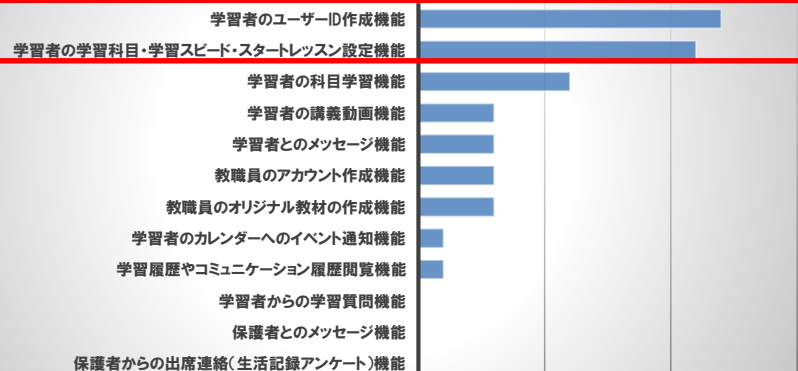
教職員画面の操作難易度は？



約7割が簡単

- とても簡単である
- やや簡単である
- やや難しい
- とても難しい

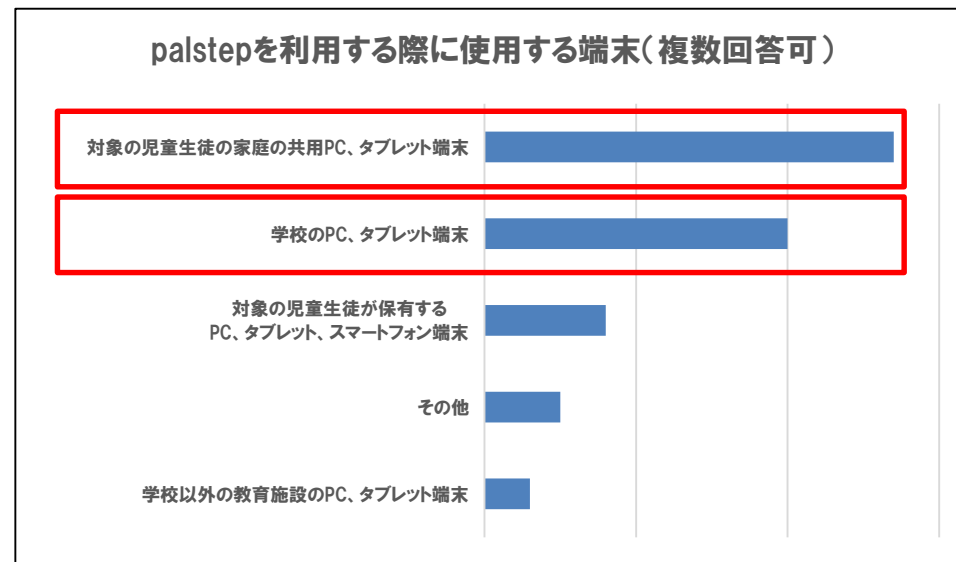
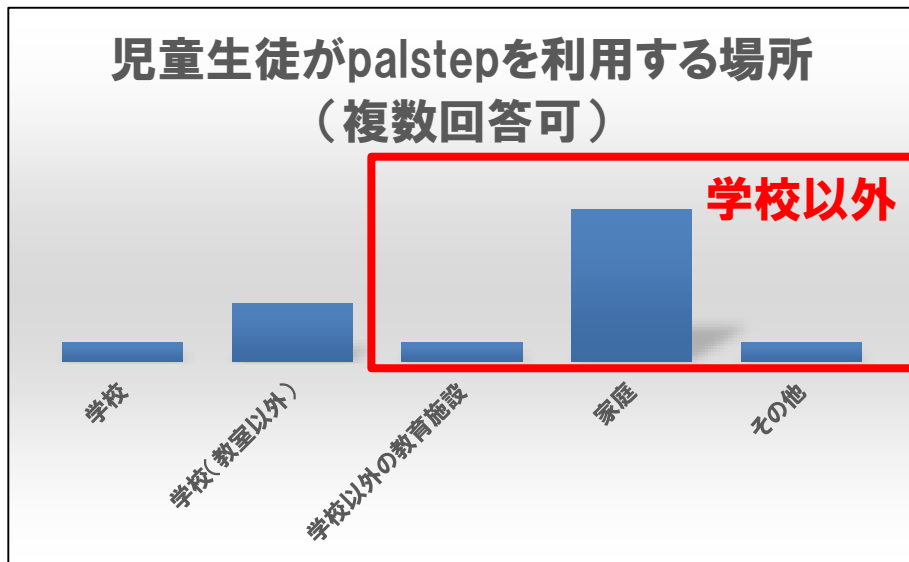
教職員画面で難しいと感じたポイント



実際のpalstepを使われた教職員のうち、約7割が操作について簡単であると回答。

難しいとされる下記のポイントについては、今後サポート対応の充実を図って参ります。

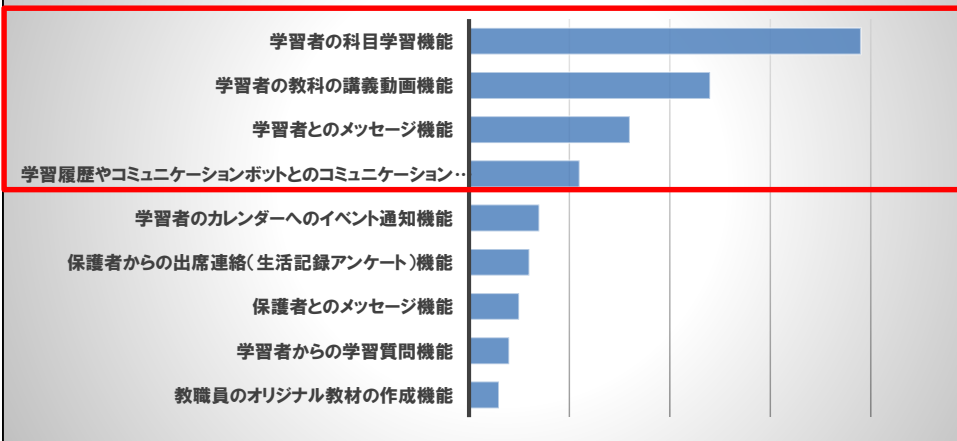
- ・学習者のユーザーID作成機能
- ・学習者の学習科目や学習スピード、スタートレッスン設定



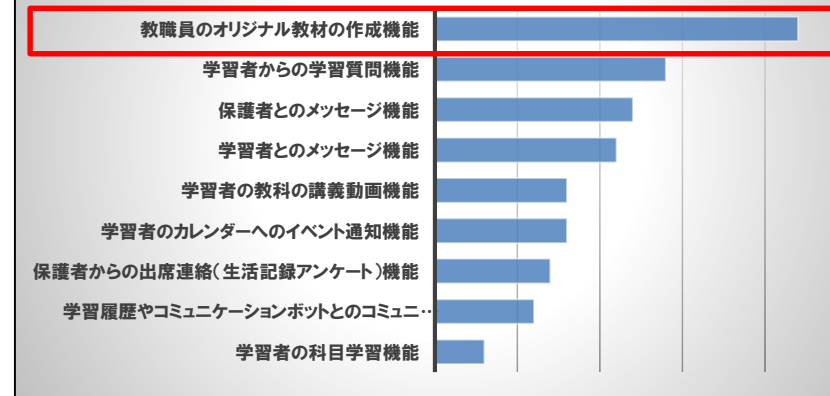
palstepの学習シーンとしては、「家庭」が大多数を占めています。次に「学校(教室以外)」と続いており、学校や教室での学びが困難な児童生徒にpalstepを使っていたことが伺えます。

また、使用された端末もご家庭のものが多数を占めていますが、学校のPC、タブレットも利用が多く、教室以外に登校した際には学校の端末を使用していたことが伺えます。

使用してみて良かった機能(複数回答可)

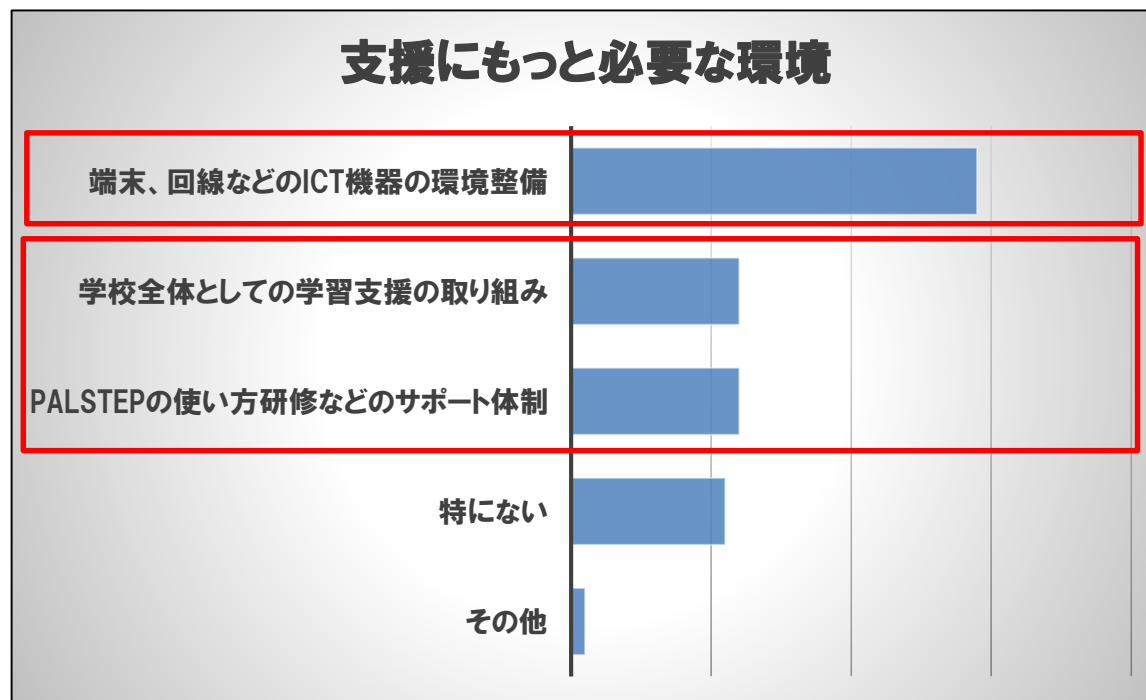


実際には使用しなかったが使ってみたい機能(複数回答可)



教職員が支援に使用してみて良かった機能としては、「科目学習」「講義動画」と学習支援部分と共に、「メッセージ機能」「コミュニケーションボット」など、palstepの特徴のひとつであるコミュニケーション機能が評価されています。

使ってみたい機能としては、「教職員のオリジナル教材作成」があがっており、教職員のさらなる学習支援強化への意欲が伺えます。



今後palstepを活用していくうえでの教職員の課題感は「ICT環境の整備」が多数を占めました。教育現場では端末や通信などのICTの基本的な環境整備の充実が求められています。次点として「学校としての学習支援の取り組み」「palstepの使い方のサポート体制」が、ほぼ同数となっています。

今後のpalstepの利活用促進のためにも、サポート体制の充実については2019年度の課題として取り組んで参ります。

活用事例

実際にpalstepを活用いただき、どのような効果があったのか。

ここでは活用事例のご紹介と地域での広がりについてご紹介致します。



- ☑地域：東北
- ☑学年：中学3年生
- ☑学びの状況：小学校高学年より完全不登校
- ☑その他特記事項：生活リズムの乱れ

背景

不登校による 小学校からの学習空白

- ・小学校高学年から不登校となり、学習空白が大きい
- ・生活のリズムも乱れ昼夜が逆転

活用方法

自分なりのICTを活用した学び方 palstepで家庭学習

- ・家庭でpalstepを使って学習し、学習空白の補い
- ・コミュニケーションボットとのやり取りで生活リズムを構築

palstep導入結果

自分なりの学び方を獲得し自信回復、 通信制高校へ進学実現

導入当初の学習時間

学習は週に1回、1時間程度

導入2カ月後の学習時間

平日ほぼ毎日学習、平均1.5時間程度と
学習時間の伸びは約8倍

昼夜逆転の生活リズムも改善、
登校判定と成績評価も内申書に記載され、
通信制高校へ進学、卒業式に初登校



- ☑地域：東北
- ☑学年：中学3年生
- ☑学習の状況：学習空白、経験が乏しい
- ☑その他特記事項：自閉傾向
「書き」に困りあり

背景

「書き」への課題と 進学への危機感

- ・小中と特別支援学級に在籍
- ・書きに苦手があるものの
言語力、読解力は高い
- ・IQの高さから療育手帳申請が
認められず、想定していた特別
支援学校の高等部への進学が
できなくなった

活用方法

苦手をpalstepで補い、 いつでもどこでも学習

- ・学校では朝学習と放課後学習
- ・家庭でも学校の続きを学習
- ・解説動画を活用
- ・学校の紙のプリント内容を
palstepに取り込んで学習

palstep導入結果

高校に合格！本人の口から、 “palstepのおかげ”

- ・学校のプリントを紙ではなく
palstepで取り込むことで見通し
が立ち、学習意欲が向上
- ・学習習慣が定着し、定期テスト
の成績もアップ。平均点を超える
科目も。
- ・私立の全日制の高校へ通常
受験で合格し、進学。

全校でpalstepを活用

palstepは学校と児童生徒・保護者を繋ぐだけでなく、教育委員会も連携して、学びの状況を確認し支援できます。

新座市教育委員会様では、市内23の小・中学校および相談室でpalstepを活用。

教育委員会主催で管理職向け、教職員向け2回の研修会を開催し、全市で子供たちの学習機会を保障する取り組みを行っています。

自治体様での利用実績

宮城県仙台市、埼玉県新座市、福井県美浜町、福岡県北九州市(モデル実施)等

2018年度は、SBプレイヤーズ株式会社の社会貢献事業としてpalstepの提供を開始させていただき、子供たちの支援に対して一定の成果を得ることができました。

今回の取り組みにおいて評価された点をさらに伸ばしつつ、課題に対しても積極的に解決を目指し、地域社会の未来を担う子どもたちへの支援の輪がさらに広がるように社会貢献活動に取り組んで参ります。